

青少年赤十字だより No.2

松野西小学校

4月1日付の愛媛新聞に「南海トラフ地震新被害想定」が報道されました。愛媛県の被害想定は、地形データの見直しにより、浸水エリアが拡大した影響から津波による死者が約3.6倍の1万6千人に上っています。被害を最小限にするための、事前の訓練や準備が必要です。

松野西小学校では、昨年度から家庭と連携して防災教育に取り組んできました。少しずつ防災の意識が高まり、各家庭でも工夫して取り組まれている様子が学習発表タイムの発表でも伝わってきました

今年度、もう一步、前に進めていきたいと考えています。それは、「防災バック作り」です。防災教室で子供たちは「防災バックが必要。」と話合いました。そこで、学校で袋を準備しました。必要と感じるものは、家庭の状況によって様々です。1学期中をめぐり、家庭でお子さんと話し合っ、バック作りに取り組んでいただきたいと思います。御理解と御協力をお願いします。

オリジナル防災バックを作って、学校に備え置こう！



想定例①：大地震が発生。土砂崩れにより道路が通行止めになり、保護者がすぐに迎えに来ることができない。保護者の迎えが来るまでの空腹をしのぐためのお菓子や食糧を保存しておこう。(ミニ備蓄型)

想定例②：洪水が発生し、浸水。家の備蓄品が浸水被害に遭う。学校に置いていた防災バックのものを使おう。(分散備蓄型)

1年間に2回、持ち帰り、中身の入れ替えをします。2学期末懇談会で持ち帰っていただく予定です。賞味期限のあるものを用意する場合は、期日に御注意ください。

全校児童に1枚ずつ「非常持出袋」を用意しました。また、ヘッドライトも1つつ購入しました。単4乾電池3本が必要になります。持ち帰った後、必要だと思う物を袋に入れ、お子さんに持たせてください。重い場合は、参観日・懇談会などに保護者の方が持ってきていただいてもかまいません。

どんな状況を想定し、どんなものを袋に入れますか？御家庭で話し合っ、取り組んでください。1学期中には、全員が学校に備えられることを目指していきます。